



学習評価がかわる【規準・基準】

県の指定研究及び新しい評価形式に移行するため、各学部での通知表の提示時期や様式等が異なりますことをご理解下さい。

平成29年度改訂の学習指導要領で、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力として、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理されることとなりました。そして、この三つの柱に沿った教育活動を行うため、個別の指導計画ではこの三つの柱に沿った目標設定を行い、学習評価においては三つの柱に対応した形として「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価となります。通知表（よいこのあゆみ）でも、指導の3観点で学習状況等を記述式で表記することとなります。

児童生徒個々に各教科等の3観点で達成・到達する目標を（評価規準）、個別の3観点の目標（評価規準）の達成度を（評価基準）とし、端的に言えばどのように取り組めたかを評価することとなります。

各学部の各教科等の教育目標は、下記表にも示しているように学習指導要領の各目標・内容を具体化し、その各教科毎の教育目標を受けて各学部段階の各教科等の授業内容・活動について、個別の指導計画を作成し、各学期の目標（評価規準）や評価（評価基準）の見直しへとつなげていくこととなります。

また、同じ活動内容であっても、下記表にあるように小学部では3段階、中・高等部では各2段階の段階があり児童生徒個々の学びの状況により個々の目標や評価（評価規準・評価基準）が異なってきます。なお、各学部を示される段階の目標は、全ての子が小学部では6カ年間をかけ3段階の履修、中・高等部はそれぞれ3カ年間をかけ各2段階の履修を目指します。

学習指導要領に示された【各教科の目標】 一例：小学部【生活】一

小学部【生活】算数や国語、他においても同様に各段階の目標・内容があります。			
具体的な活動や体験を通して、生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
知識及び技能	(1)活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。		
思考力、判断力、表現力等	(2)自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。		
学びに向かう力、人間性等(主体性)	(3)自分のことに取り組んだり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとしたりする態度を養う。		
段階の目標	1段階（1，2年）	2段階（3，4年）	3段階（5，6年）
知識及び技能	ア 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴に関心をもつとともに、身の回りの生活において必要な基本的な習慣や技能を身に付けるようにする。	ア 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴や変化に気付くとともに、身近な生活において必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	ア 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりに関心をもつとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて 関心を持ち、感じたことを伝えようとする。	イ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて 気付き、感じたことを表現しようとする。	イ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。
学びに向かう力、人間性等(主体性)	ウ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然に関心を持ち、意欲をもって学んだり、生活を豊かにしようとしたりする態度を養う。	ウ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけようとしたり、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとしたりする態度を養う。	ウ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとしたりする態度を養う。

※児童生徒個々の学びの段階を各学級担任等と共通確認下さい。

※各段階に示されている学年は、だいたいの目安です。

評価規準（個別目標）と評価基準（達成レベル）の説明をします。下記の表は、小学部の【生活】を例に、生徒個人の個別の目標である（評価規準）、目標の達成度である（評価基準）を示しています。

小学部【生活】 基本的な生活習慣の目標【評価規準例】（児童によって異なります）			
段階の目標	1段階（1，2年）	2段階（3，4年）	3段階（5，6年）
ア 基本的な生活習慣	食事や用便等の生活習慣に関わる初歩的な学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	食事、用便、清潔等の基本的な生活習慣に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身の回りの整理や身なりなどの基本的な生活習慣や日常生活に役立つことに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
知識及び技能	目標(ア)簡単な身辺処理に気が付き、教師と一緒に行動をとること。	目標(ア)必要な身辺処理が分かり、身近な生活に役立てようとする。	目標(ア)必要な身辺処理や集団での基本的な生活習慣が分かり、日常生活に役立てようとする。
	目標(イ)簡単な身辺処理に関する初歩的な知識や技能を身に付けること。	目標(イ)身近な生活に必要な身辺処理に関する基礎的な知識や技能を身に付けること。	目標(イ)日常生活に必要な身辺処理等に関する知識や技能を身に付けること。
小学部【生活】 基本的な生活習慣の【評価基準例】（児童によって異なります） 3段階で評価			
段階の目標	1段階（1，2年）	2段階（3，4年）	3段階（5，6年）
知識及び技能	目標(評価規準)(ア)を受けて ・自分で身辺処理に気づき、教師と一緒に行動が出来る。 ・教師の声かけで、身辺処理に気づき、教師と一緒に行動が出来る。 ・身辺処理を教師の支援のもと行動が出来る。	目標(評価規準)(ア)を受けて ・身辺処理（着替え、トイレ等）をおおまかに一人で出来る。 ・学校や家庭、学童等で同じ方法で身辺処理が出来る。 ・学校では教師の指示で、身辺処理が出来る。	目標(評価規準)(ア)を受けて ・基本的な生活習慣のほとんどが出来、集団生活への適応も図られ、家庭等での汎化も出来ている。 ・学校では一人で基本的な生活習慣のほとんどが出来、家庭ではまだ不十分である。 ・学校・家庭等において、何らかの支援が必要である。
	目標(評価規準)(イ)を受けて	目標(評価規準)(イ)を受けて	目標(評価規準)(イ)を受けて

※【生活】には、基本的な生活習慣の他（安全、日課・予定、人の関わり等12項目あります）

学習指導要領に示された【各教科の目標】 例—中学部【国語】・高等部【数学】—

中学部【国語】教育目標		高等部【数学】教育目標		
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で理解し表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次の通り育成する。		
知・技	(1)日常生活や社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	(1)数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		
思・判・	(2)日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う	(2)日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。		
学・人	(3)言葉がもつよさに気付くとともに、言語感覚を養い、国語を大切にその能力の向上を図る態度を養う。	(3)数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学を生活や学習に活用しようとする態度を養う。		
	1段階（1・2年）	2段階（2・3年）	1段階（1・2年）	2段階（2・3年）
知識・技能	ア 日常生活や社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。	ア 日常生活や社会生活、職業生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。	ア 整数、小数、分数及び概数の意味と表し方や四則の関係について理解するとともに、整数、小数及び分数の計算についての意味や性質について理解し、それらを計算する技能を身に付けるようにする。	ア 整数の性質、分数の意味、文字を用いた式について理解するとともに、分数の計算についての意味や法則について理解し、それらを計算する技能を身に付けるようにする。